

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 6 8	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Background Characteristics of Basic Health Examination Participants: the JPHC Study Baseline Survey 基本健康診査受診者の基本属性：JPHC 研究ベースライン結果より	
執筆者 M Iwasaki, T Otani, S Yamamoto, M Inoue, T Hanaoka, T Sobue, S Tsugane for the JPHC Study Group	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Journal of Epidemiology. 2003 Jul; 13(4):216-25	
キーワード 基本健康診査, 受診者, 選択の偏り, 一般集団	
要 旨 (背景・目的) 癌および循環器疾患に関する保健所ベースの前向き研究 (JPHC 研究) をはじめとして、多くの疫学研究は基本健康診査受診者を対象としている。しかしながら、これらの対象者の基本属性についてあまり報告されていない。この研究の目的は対象者の基本属性を明らかにし、疫学研究に関する影響を検討することである。	
(方法) 対象は、40-59 歳で JPHC 研究に参加し、自記式質問票に回答した 1990 年調査 43,140 人 (コホート I) および 1993-4 年調査 34,892 人 (コホート II) とした。有効な基本健康診査のデータを持つ回答者を受診者、ないものを非受診者と定義した。非受診者と比較して、受診者の社会的要因、既往歴、生活習慣関連要因について検討した。	
(結果) 受診者は年齢がやや高く、教育水準がやや低い傾向にあった。また農林水産業従事者や自営業者、主婦が多くみられた。男性受診者では喫煙率はやや低いものの、中程度のアルコール飲酒が多くみられた。女性受診者では喫煙・飲酒ともに低かったが、余暇時間でのスポーツや身体活動への参加はより多くみられる傾向にあった。男女共に受診者では非受診者に比べ、果物や緑色野菜の摂取頻度が多かった。概して受診者は非受診者と異なる社会経済状態であり、特に女性においては良好な生活習慣を有していた。同様の傾向が基本的に 2 つのコホートで認められた。	
(結論) 基本健康診査の受診者と非受診者の間のこれらの相違は、選択の偏りを生じている可能性を示唆しており、結果の適応範囲が基本健康診査受診者に限られる可能性があると考えられた。	